

# 平成30年度「学力・学習状況」検証事業研究成果報告書

館山市立館山第一中学校

## 1 学校紹介

本校は、館山市北部に位置し、全校生徒213名、9学級(特2舎)の小規模校である。

## 2 研究主題

基礎・基本の定着を図る学力向上を目指して  
～学力・学習状況調査の分析を通して～

## 3 研究の概要

### (1) 生徒の実態と課題について

本校の過去3年間の全国学力・学習状況調査結果の正答率を見ると、国語A、Bや数学A、Bとも全国平均を下回っているが、年々全国平均に近づきつつある。

[教科経年分析・質問紙分析]

#### 【国語】

3年間の経年分析を見ると、各領域全国平均に近づいてきている。しかし、「記述式」の項目については、年度によって偏りが見られ、改善していかなければならない。

#### 【数学】

3年間の経年分析を見ると、「記述式」の項目については、年度により偏りが見られるが、他の項目と比べると平均点より極端に低く、改善していかなければならない。

#### 【生徒質問紙調査】

平成28年度の生徒質問紙より、「家で、学校の宿題・・・」「学校の規則・・・」の項目で県平均を大きく下回り、学習規律を全職員で確認し、家庭学習の徹底や充実、規則正しい生活習慣を身に付けさせるための方策を実施していく。

### (2) 学力向上のための取り組みについて

- ①授業改善
- ②教科の「記述式」に対する取組
- ③学区小学校への授業参観
- ④授業外の取組(・定期テスト前の学習相談日の設定 ・朝読書の推進及び朝ドリルの実施)

### (3) 加配教員の活用について

- ①学習支援が有効に行える教育課程の編成
- ②定期的な教科部会、各種委員会での情報共有
- ③定期テスト前の学習相談日での個別学習支援

## 4 成果と今後の課題

### (1) 授業改善

「生徒質問紙」の「学校の規則・・・」の間では、県平均に近づきつつある。

### (2) 「記述式」に対する取組

国語科では、「書く」ことを意識して、授業実践してきた取組が全国学力・学習調査の結果にも表れてきた。今後は、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が課題。

数学科では、過去最低の結果となり、生徒質問紙からも「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」等の質問において県平均より低い値であった。今後は、「解き方や考え方をノートにまとめさせる」と同時に「数学が好き」「数学の勉強は大切」と思えるような授業の工夫が必要。

### (3) 授業外の取組

- ・「学習相談」では、自主的で意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・朝ドリルでは、クラスの平均点向上を目指し、クラス一丸となって取り組む姿が見られた。

### (4) 加配教員を有効活用した学習支援体制の強化

- ・全学年の数学と英語で、TT指導や少人数指導を行った。個々の習熟度に応じた支援を行うことができた。また、通常学級における支援を要する生徒に対しても個別の支援を行うことができた。